

野菜の需給・価格動向レポート（平成29年12月18日版）

1 主要野菜の生産出荷状況

※レポートの読み方については、注意書きを参照してください

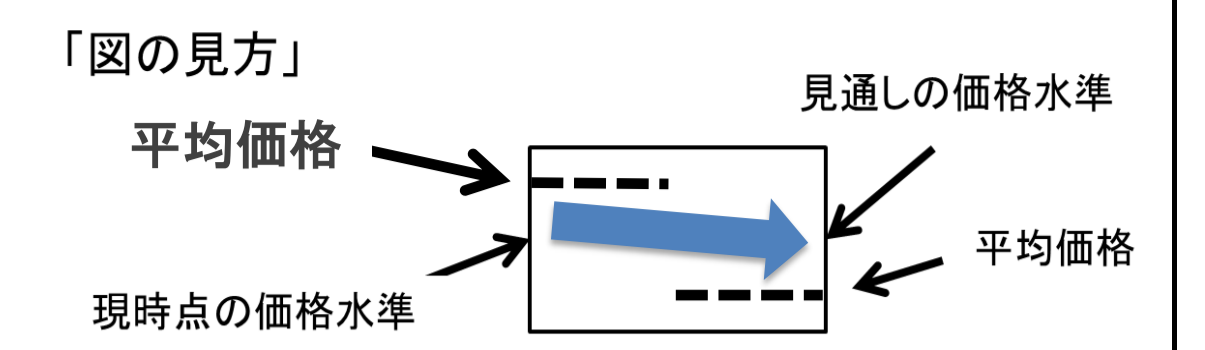
種類	11月の価格情報			12月の価格情報		12月上旬の関東及び近畿ブロックの入荷量 ()内は、本年と過去3カ年平均値との比率	12月の主産地	生育及び価格の1月中旬までの見通し	「図の見方」 平均価格 見通しの価格水準 現時点の価格水準	
	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格 中旬	下旬	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	旬別平均販売価格 月上旬					
葉菜類	キャベツ	72.93	91	106	72.93	117 (160%)	・6,172t (81%)	愛知(56), 千葉(25)	→	愛知産は、干ばつ傾向の影響からやや小玉傾向となっているものの、安定的な出荷となっており、引き続き平年並みの出荷の見込み。千葉産は、10月の台風による塩害により、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。
		76.91	100	110	76.91	122 (158%)	・2,114t (75%)	愛知(63), 兵庫(10), 大阪(8)	→	愛知産の出荷は平年並みと見込まれるものの、千葉産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
	たまねぎ	83.77	73 (87%)	76 (91%)	83.77	81 (96%)	・7,286t (95%)	北海道(97)	→	北海道産は、現在中生品種の貯蔵ものの計画的な出荷となっており、作柄も平年並み以上であったことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。
		83.77	77 (92%)	80 (95%)	83.77	82 (98%)	・3,301t (96%)	北海道(87), 兵庫(12)	→	北海道産の出荷は平年並みと見込まれるものの、市場在庫もあることから、現在平均並みの価格は、引き続き平均並みで推移する見込み。
	ねぎ (関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ)	136.25	294 (216%)	355 (261%)	136.25	331 (243%)	・2,214t (89%)	千葉(25), 埼玉(19), 群馬(14), 茨城(13)	→	千葉産は、太ものが増加してきているものの、現在も10月の台風による葉折れ、曲がり等が多く、正品率に影響がでており、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。埼玉産及び群馬産は、10月の台風により倒伏や曲がり等が発生し、正品率に影響がでており、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。茨城産は、10月の台風により葉折れ等が発生し、正品率に影響がでており、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。
		467.01	706 (151%)	657 (141%)	467.01	649 (139%)	・142t (78%)	徳島(26), 三重(19), 奈良(19), 高知(12)	→	千葉産、埼玉産、群馬産及び茨城産の出荷が平年よりやや少なめ又は少なめと見込まれ、鍋物等の季節需要が堅調なことから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
	はくさい	40.32	68 (168%)	90 (223%)	40.32	85 (210%)	・5,755t (95%)	茨城(96)	→	茨城産は、10月の台風による浸水被害で、根のハリが弱く肥大遅れが発生し、小玉傾向となっていることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。
		55.95	91 (163%)	117 (209%)	55.95	122 (218%)	・1,015t (55%)	茨城(33), 愛知(17), 和歌山(10), 兵庫(8)	→	茨城産の出荷が平年より少なめと見込まれ、鍋物等の季節需要が堅調なことから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
	ほうれんそう	385.11	855 (222%)	904 (235%)	385.11	811 (210%)	・492t (56%)	群馬(44), 茨城(21), 千葉(13)	→	群馬産及び茨城産は、10月の台風及び曇雨天により生育が鈍いことから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。千葉産は、ハウス作が増加してきたものの、10月の台風の影響で露地作の生育が鈍いことから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。
		461.74	849 (184%)	868 (188%)	461.74	877 (190%)	・170t (49%)	徳島(47), 福岡(19), 群馬(11), 岐阜(10)	→	群馬産、茨城産及び千葉産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
	レタス (結球)	143.63	298 (207%)	390 (272%)	233.85	358 (153%)	・1,750t (54%)	静岡(30), 香川(15), 茨城(14), 兵庫(12)	→	静岡産は、11月の好天で生育は回復傾向であるが、10月の台風及び秋雨前線等の長雨による定植及び生育遅れに加え、正品率の低下も見られることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。香川産及び兵庫産は、11月の好天で生育は回復傾向であるが、10月の台風及び秋雨前線等の長雨による生育遅れや正品率の低下がみられることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。茨城産は、低温や10月の台風による降雨で、生育遅れによる小玉傾向に加え、ほ場ロスで正品率の低下がみられることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。
		154.61	280 (181%)	365 (236%)	226.75	388 (171%)	・523t (49%)	兵庫(46), 徳島(21), 香川(10), 長崎(9)	→	静岡産、香川産、茨城産及び兵庫産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
果菜類	きゅうり	289.03	365 (126%)	449 (155%)	370.98	456 (123%)	・2,171t (96%)	宮崎(37), 千葉(19), 高知(15), 埼玉(13)	→	宮崎産は、10月の天候不順に加え、12月の気温低下の影響で生育が鈍いことから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。千葉産は、11月の日照不足により、生育が鈍く、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。高知産は、12月の曇雨天及び気温低下により着果不良が発生しており、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。埼玉産は、加温作の生育も順調で、作柄も良いことから、引き続き平年並みのまま12月末に出荷終了の見込み。
		298.96	353 (118%)	461 (154%)	350.33	447 (128%)	・674t (84%)	宮崎(51), 高知(22), 徳島(9)	→	宮崎産、千葉産及び高知産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
	トマト (大玉)	347.41	369 (106%)	426 (123%)	349.23	444 (127%)	・2,376t (83%)	熊本(47), 愛知(16), 栃木(13)	→	熊本産は、11月中旬以降の気温低下や日照不足により着色遅れが発生しており、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。愛知産は、12月の気温低下により、着色や生育遅れが発生していることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。栃木産は、10月中旬の曇雨天と11月の低温により、生育遅れが発生していることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。
		371.67	377 (101%)	407 (110%)	326.61	422 (129%)	・843t (83%)	熊本(76)	→	熊本産、愛知産及び栃木産の出荷が平年より少なめ又はやや少なめと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
	なす	301.00	508 (169%)	477 (158%)	389.03	532 (137%)	・441t (72%)	高知(64), 福岡(17)	→	高知産は、10月の曇雨天や台風の影響に加え、12月の曇雨天や気温低下等により、花落ち等の生育不良が発生していることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。福岡産は、11月中旬までの好天により生育が回復したものの、下旬以降の気温低下により肥大遅れが発生していることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。
		263.21	492 (187%)	485 (184%)	397.74	538 (135%)	・159t (63%)	高知(42), 熊本(25), 福岡(19), 岡山(11)	→	高知産及び福岡産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
ピーマン	378.83	593 (157%)	515 (136%)	378.83	516 (136%)	・682t (97%)	宮崎(36), 茨城(30), 高知(18)	→	宮崎産は、11月の好天で草勢が回復し、生育は概ね順調なことから、現在少なめの出荷は、今後は平年並みに回復する見込み。茨城産は、11月の好天で生育は順調で、端境もみられないことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。高知産は、加温作の生育が概ね順調なことから、現在平年よりやや少なめの出荷は、今後は平年並みに回復する見込み。	
	371.29	578 (156%)	480 (129%)	371.29	502 (135%)	・270t (99%)	宮崎(43), 高知(24), 鹿児島(13)	→	宮崎産、茨城産及び高知産の出荷が平年並みに回復または平年並みと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は平均に近づくものの、引き続き平均を上回って推移する見込み。	
根菜類	だいこん	67.55	96 (142%)	111 (164%)	67.55	116 (171%)	・4,215t (68%)	千葉(47), 神奈川(45)	→	千葉産は、10月の台風による塩害等で、生育遅れや下等級品の発生がみられることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。神奈川産は、10月の台風による塩害等で下等級品も目立ち、10日から2週間ほど生育遅れが発生していることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。
		76.48	100 (130%)	115 (150%)	76.48	119 (156%)	・2,191t (72%)	和歌山(30), 長崎(25), 徳島(19), 鹿児島(17)	→	千葉産及び神奈川産の出荷が平年より少なめ又はやや少なめと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
	にんじん	105.86	134 (127%)	124 (117%)	105.86	114 (108%)	・4,493t (85%)	千葉(80)	→	千葉産は、10月の台風及び日照不足により、肥大不足で小玉傾向となっているものの、本年は豊作基調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。
104.49		136 (130%)	123 (118%)	104.49	140 (134%)	・1,485t (91%)	長崎(50), 鹿児島(14), 鳥取(13), 千葉(9)	→	千葉産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平均並みの価格は、引き続き平均並みで推移する見込み。	

注：1 平均価格は、過去6カ年（平成20～25年）の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均（消費税は除く）で、保証基準額の算定の基となる価格。
2 旬別平均販売価格の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は保証基準額（平均価格の90%）を下回るもの（消費税は除く）であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。
4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。（ ）内は入荷シェアで平成28年実績である。
5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴き取りをもとに機構が作成したものである。

1 主要野菜の生産出荷状況

※レポートの読み方については、注意書きを参照してください

種類	1 1月の価格情報				1 2月の価格情報		1 2月上旬の関東及び近畿ブロックの入荷量 ()内は、本年と過去3カ年平均値との比率	1 2月の主産地	生育及び価格の1月中旬までの見通し
	(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格		(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格	上旬			
		中旬	下旬						
いも類	さといも	220.97	259	255	220.97	275	・517t (97%)	埼玉(60), 千葉(14)	→
			(117%)	(115%)		(124%)			
	ばれいしょ	217.56	275	272	217.56	271	・210t (97%)	愛媛(36), 福井(26), 静岡(10)	→
			(127%)	(125%)		(124%)			
2	96.99	92	95	96.99	98	・3,564t (93%)	北海道(80)	→	
		(95%)	(98%)		(101%)				
3	96.99	87	89	96.99	91	・1,424t (93%)	北海道(84), 長崎(16)	→	
		(90%)	(92%)		(94%)				

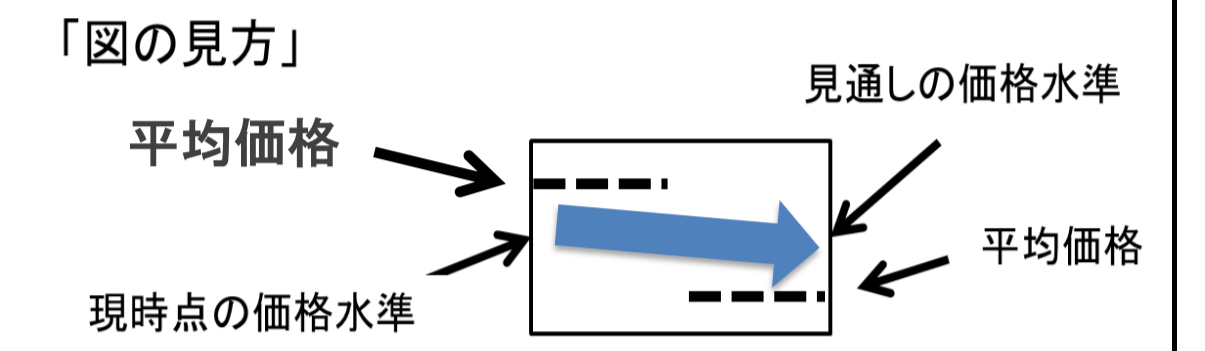


平均価格(点線)は、レポート期間中に変動する場合があります。

注: 1 平均価格は、過去6カ年(平成20~25年)の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)で、保証基準額の算定の基となる価格。
 2 旬別平均販売価格の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
 3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。
 4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアで平成28年実績である。
 5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聞き取りをもとに機構が作成したものである。

1 主要野菜の生産出荷状況(特定野菜)

種類	1 1月の価格情報				1 2月の価格情報		1 2月上旬の東京都・大阪市場の入荷量 ()内は、本年と過去3カ年平均値との比率	1 2月の主産地	生育及び価格の1月中旬までの見通し
	(参考) 過去5カ年平均価格	東京都・大阪市場の旬別価格		(参考) 過去5カ年平均価格	東京都・大阪市場の旬別価格	上旬			
		中旬	下旬						
洋菜類	ブロッコリー	302.07	401	493	321.75	453	・686t (77%)	愛知(24), 香川(24), 埼玉(18)	→
			(133%)	(163%)		(141%)			
根菜類	ごぼう	369.86	452	534	336.04	549	・130t (52%)	鳥取(26), 徳島(24), 米国(11), 長崎(9)	→
			(122%)	(144%)		(163%)			
根菜類	かぶ	247.06	240	213	295.68	254	・317t (87%)	青森(63), 茨城(16)	→
			(97%)	(86%)		(86%)			
	179.28	171	166	182.97	178	・202t (65%)	茨城(51), 青森(16), 北海道(16)	→	
		(95%)	(93%)		(97%)				
121.32	186	188	124.64	184	・347t (68%)	千葉(83)	→		
	(153%)	(155%)		(148%)					
146.85	238	226	132.52	235	・76t (66%)	福岡(28), 徳島(22), 石川(21)	→		
	(162%)	(154%)		(177%)					



平均価格(点線)は、レポート期間中に変動する場合があります。

注: 1 平均価格は、過去5カ年(平成24~28年)の東京都及び大阪市中央卸売市場の価格。
 2 旬別価格は、上段は東京都中央卸売市場、下段は大阪市中央卸売市場であり、単位は円/kgである。
 3 旬別価格の赤字及び青の背景は、平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は平均価格を80%を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
 4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアで平成28年実績である。

2 トピック - かんしょの需給動向について -

今回は一年間でこの時期最も出荷量の多いかんしょを紹介する。

原産地と日本への渡来
 かんしょの原産地は中央アメリカで、15世紀にアメリカ大陸へ渡ったコロンブスがヨーロッパへ持ち帰り、世界中に広まった。日本へは、17世紀初めに中国から沖縄へ伝来し、その後薩摩藩を中心とした南九州に広まった。18世紀前半には蘭学者の青木昆陽が救荒作物として全国に普及させたことは有名である。かんしょは、江戸時代からの大飢饉や戦中・戦後の食料不足から多くの国民の命を救ってきた。かんしょ(甘藷)の由来は、「甘みのあるいも」を意味する。また、薩摩藩で栽培が盛んだことから「さつまいも」と呼ばれているが、伝来当初の江戸時代には「蕃薯(ばんしょ)」と呼ばれていた。

主な種類と特徴
 かんしょは、形、皮の色、肉の色等が品種によって様々である。品種は、世界に4千種類あるといわれているが、日本での栽培は40品種程度。生食用として関東地方の代表品種であるベニアズマ、西日本で生産量が多く芋ケンピ(かりんとう)の原料となる高系14号、生食用のほかにてん粉原料用、焼酎原料用となるコガネセンガン、干し芋の原料となるタムユカカ等がある。

生産状況等
 「野菜生産出荷統計」によると平成19~21年に4万1000ヘクタールであったものの、平成28年は3万6000ヘクタールと減少傾向にある。収穫量は平成20~21年に100万トンを超えたが平成28年は86万1000トンと減少した(図1)。

平成28年の産地別収穫量は、最も多いのが鹿児島県の32万2800トンで全国の37%を占めている。次が茨城県の17万2000トン(同20%)、3番目が千葉県の10万3500トン(同12%)と続く。なお、鹿児島県での用途は9割以上がでん粉原料用と焼酎原料用である(図2)。

東京都中央卸売市場における平成28年の入荷量は秋から冬にかけて多くなり、12月が3261トンと最も多くなっている(図3)。「日本貿易統計」によるとここ10年で生鮮・乾燥及び冷凍合わせて、およそ1万8000トンから2万5000トン程度に推移しており、最近では冷凍の割合が高くなってきている(図4)。

栄養価と効用
 かんしょの主な成分はエネルギー源であるでん粉であるが、ビタミンやミネラル、食物繊維も多く含まれている。しみやそばかすを抑制するビタミンCは、熱に弱い性質がある。しかし、かんしょの場合は加熱によってでん粉が糊化し膜となってビタミンCの消失を防いでくれる。また、強い抗酸化機能を発揮して老化を防止するビタミンEや、余分なトリウムの排泄を促し、むくみの解消や高血圧予防に有効とされるカリウムも多く含む。

図1 かんしょの作付面積と収穫

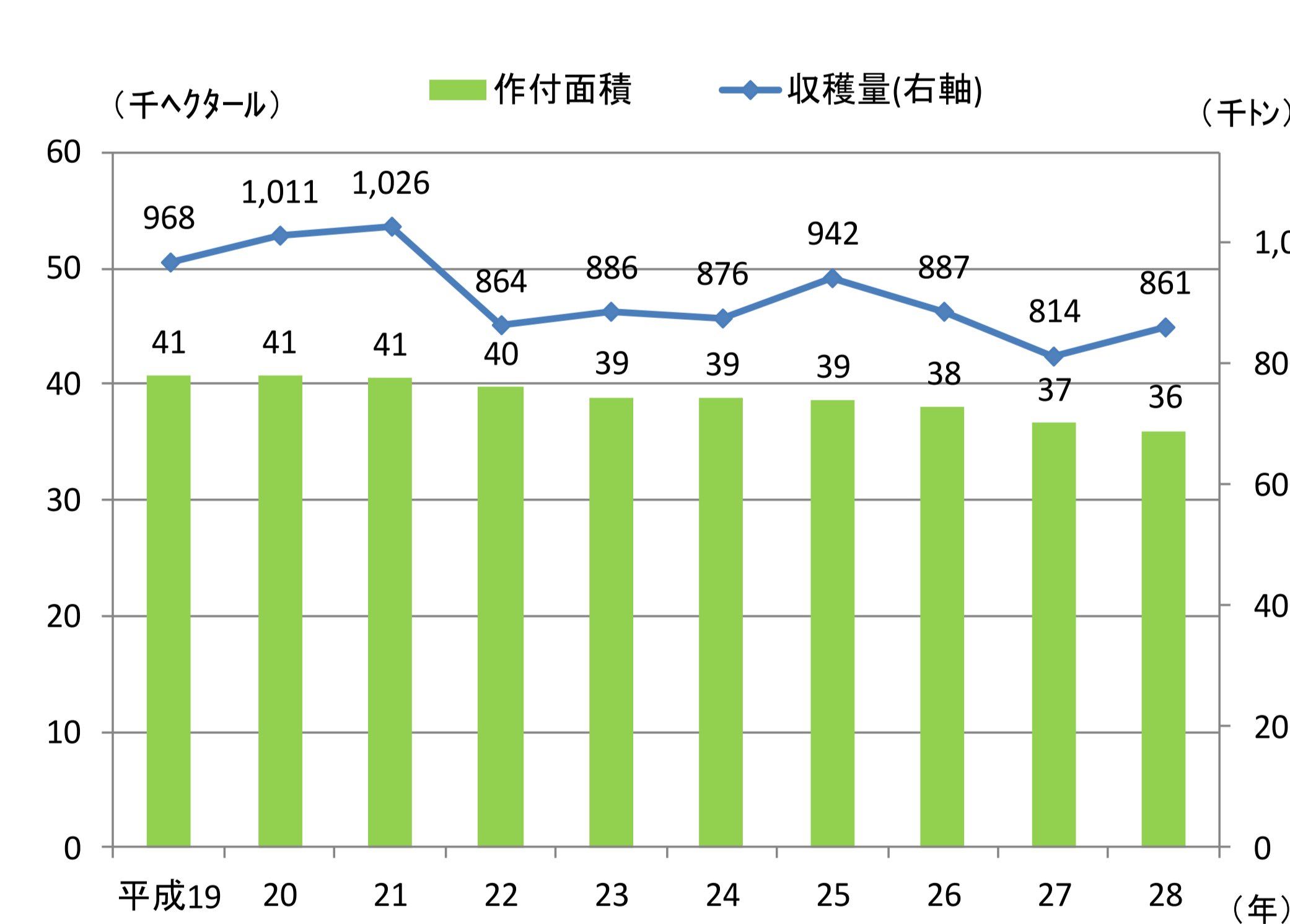


図2 かんしょの産地別収穫量(平成28年)

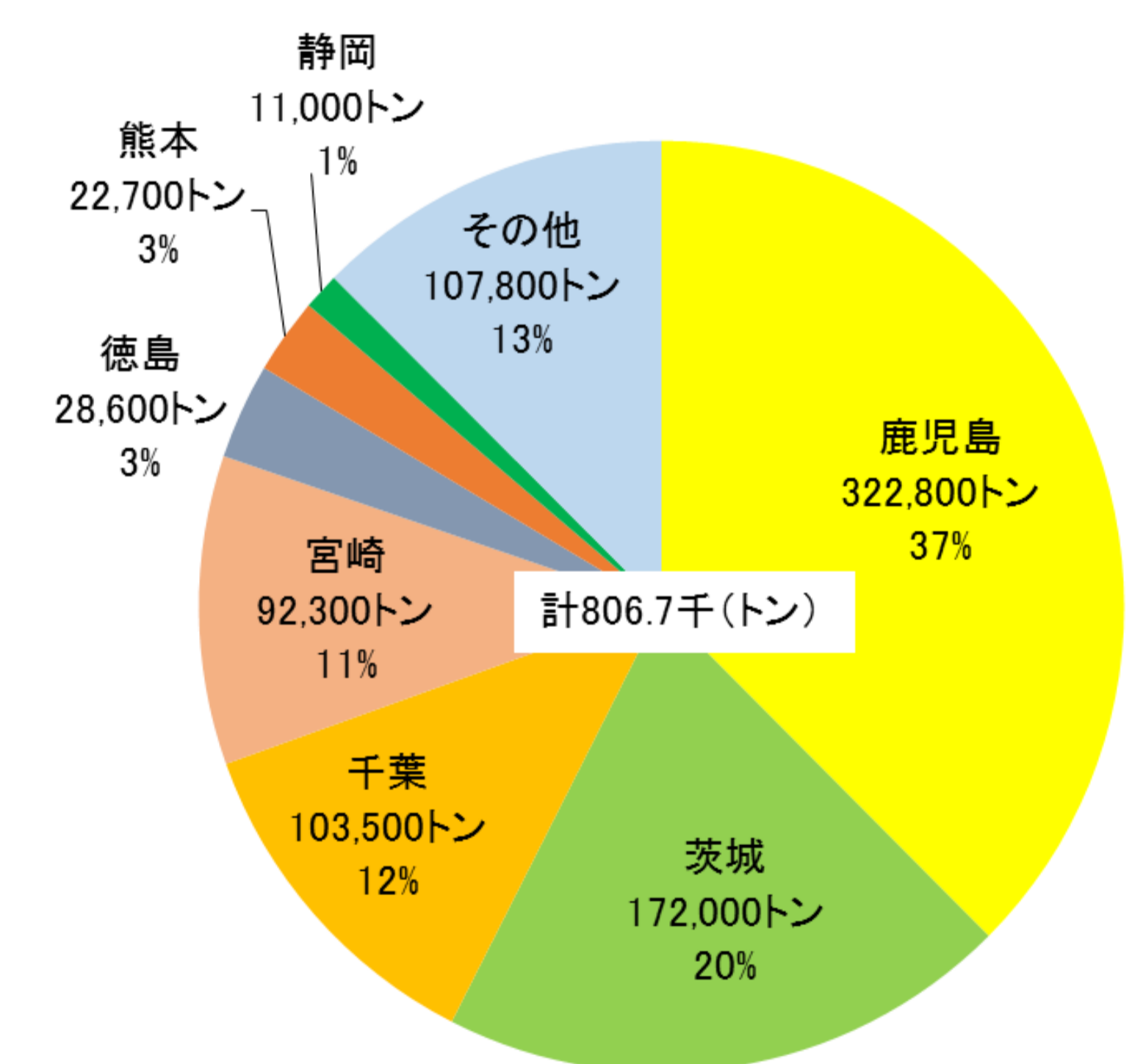


図3 かんしょの東京都中央卸売市場月別入荷数量(平成28年)

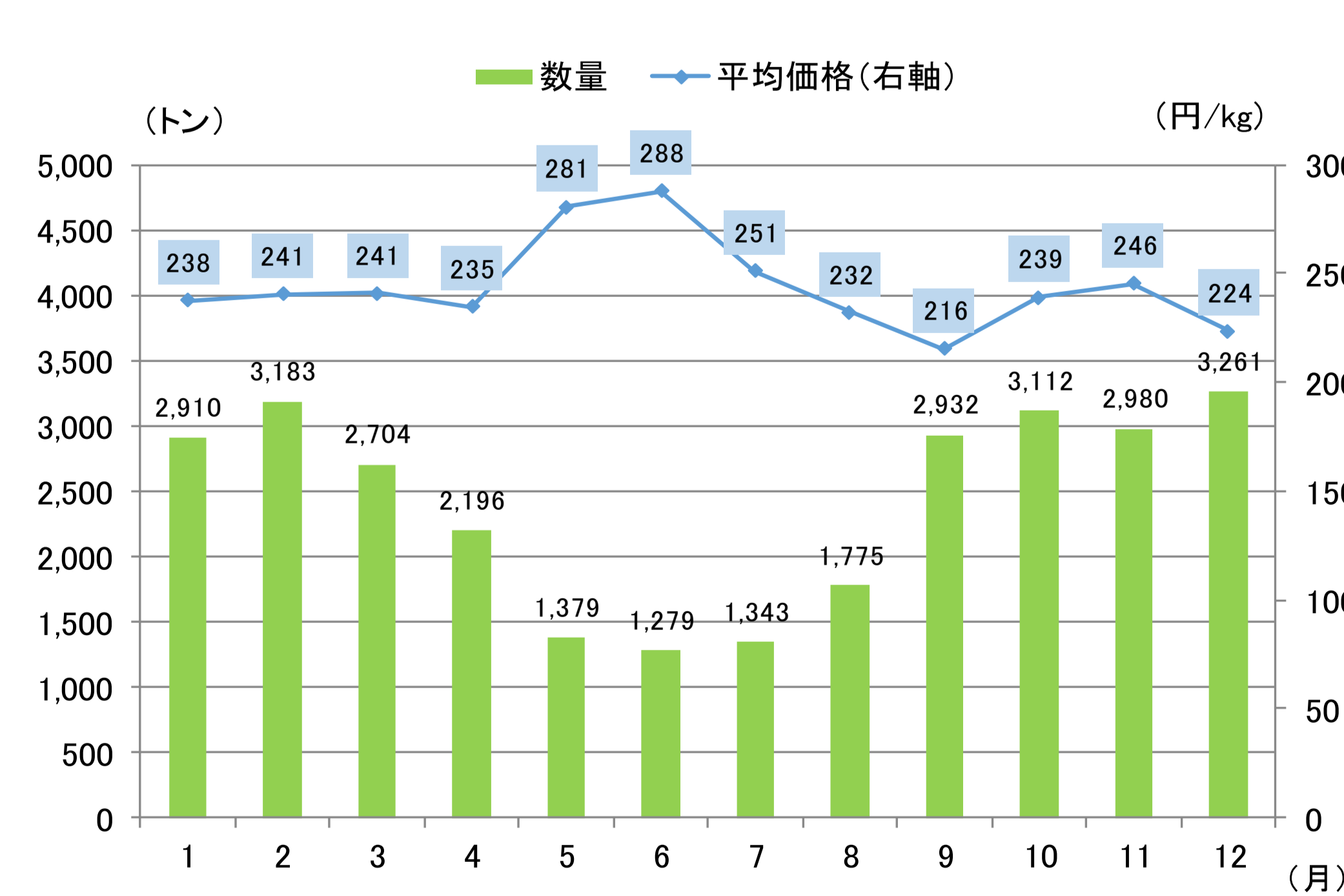
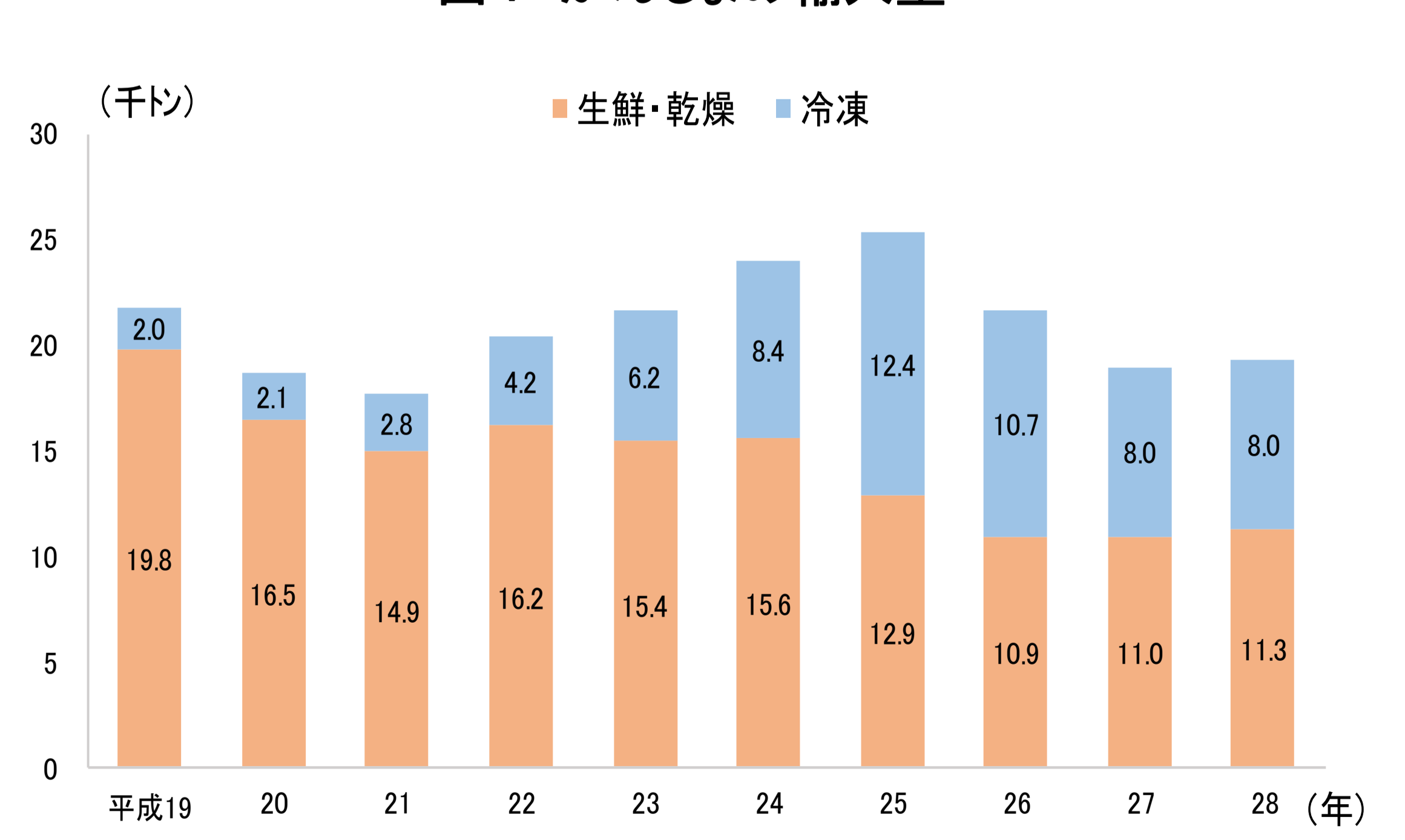


図4 かんしょの輸入量



資料: 農畜産業振興機構「ベジ探」(原資料: 図1、図2 農林水産省「野菜生産出荷統計」 図3 東京都中央卸売市場「市場統計情報月報」 図4 財務省「日本貿易統計」)

●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 安藤、松岡、植村 TEL03-3583-9448、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。
 ◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方は当機構のホームページのトップ画面、メールマガジンから登録してください。
 ★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、http://vegetan.aic.go.jp/vegetable_report.htmlに掲載しています。
 ※無断転載せず ・レポートに記載された情報をご利用になったことにより生じたいかなる損害に関しても、当機構は一切の責任を負いません。